

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当センター内に公認心理師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等の専門職の配置、また、相談支援事業所の併設により、ニーズに対して必要な支援内容の検討・提供について連携を図っています。	支援内容に悩んだ時には、センター内で専門職員に相談、検討し、訪問先や保護者に伝えるようにしています。	センターの多職種職員と相談、共有しながら支援の幅を広げていきます。
2	市内の通所支援事業所対象の連絡会を年3.4回開催しており、情報共有や意見交換など行うことができます。	利用者のニーズを把握したうえで、必要な協議内容を支援者間で出し合い、顔の見える関係の中で事例検討や研修会を開催しながら、連携を図っています。	課題に対しての対応や取り組みの結果を検証し、今後の支援につなげていくよう努めます。
3	市内で関わっている子ども・保護者・支援者のニーズや現状に沿った内容の研修会を専門職の意見も含め企画、実施しています。	市内の指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業所及び障害児通所支援事業所・認定こども園・保育園・幼稚園・小中学校・支援学校等職員に児童発達支援センター主催研修の案内をし、支援に対する共通言語を持つことができるように意識して取り組んでいます。	研修で受けた内容を保育所等訪問支援で活かしていけるよう、子どもの姿と照らし合わせ、訪問先職員との共通理解を大切に伝えていきます。

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援のニーズは増えてきていますが、2名の訪問支援員が他の業務と兼務のため、訪問支援を提供できる人数に制限があり、すぐに対応できないことがあります。	訪問支援を必要な児童に必要な時期に提供できる訪問支援員の体制作りが必要であると考えます。	・センター内の他の業務を担いながらも円滑に訪問支援業務を遂行できるよう、担当職員間の連携を図り、情報の共有を行いながら、担当が固定でなくとも対応できるようにしています。 ・訪問支援員の増員については、地域支援業務を含め所職員1名増員予定です。

○ 今後の改善に向けた取り組み

	チェック項目	現在の取り組み	今後の課題や改善すべき点
環境・運営・体制整備	1 訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	訪問員の持ち出しでの教具教材もあるため、使用する教具教材に関してはルールの設定なども必要であると考えています。	支援に必要な教具教材は作成したり、計画的に購入を検討します。
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	現状の利用者数であれば適切ではあるが、近年の傾向を考えると利用者が増えると考えられるため、増員は必要であると考えています。	訪問員の体制について相談、検討していきます。
適切な支援の提供	3 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	保育所等訪問支援ガイドラインに沿った内容で実施できています。	引き続き行っていきます。
	4 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	訪問前日または当日に内容確認はしています。訪問時の様子から、できる支援の内容や役割り分担について確認しチームで連携しながら支援を行っています。	お互いの業務状況を共有し、意識して時間を作っていきます。
	5 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	訪問後は、毎回30分～1時間程度のカンファレンスを行っており、その中で、目標の達成状況などを確認し合い支援を進めています。	引き続き丁寧に行っていきます。

関係機関や保護者との連携	6	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	保育所等訪問支援に関わる児童発達支援管理責任者、訪問員が担当し、センター主催研修会として、市内の福祉・教育が連携を図ることができるよう、研修の計画・実施を進めています。	引き続き行っていきます。
	7	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	特に、年度の移行時には訪問支援を丁寧に行い、支援者が変わっても支援内容が変わらないように情報共有を行っています。	引き続き丁寧に行っていきます。
	8	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	保護者から連絡があった際には、その都度子どもの様子を聞き、子育てに関してともに考えるようにしています。また、訪問期間があいた場合は、訪問員からも連絡を取り、様子を確認しています。	引き続き丁寧に行っていきます。
	9	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	家族支援プログラムや、サポートブックの記入をする会など、家族支援をする場が多くあるため、今後そのような情報提供も意識して行っていきたいです。	家族支援プログラムについては今後研究していきます。
保護者等への説明等	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	保育所等訪問支援導入の支援会議時にニーズにあっているかの確認、修正や加筆についての確認を行っています。	引き続き行っていきます。
	11	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	口頭でのやりとりが中心になっているため、視覚支援などの方法も今後活用し、伝えたい内容が正しく伝わるような配慮の工夫はしていくことが必要であると考えます。	必要に応じて視覚支援など取り入れていきます。
訪問先施設への説明等	12	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	訪問先から相談があった際は、その都度対応しています。	引き続き行っていきます。
	13	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	訪問員からの一方通行の関りにならないよう、相互の意見をとりいれ、関係を構築するように意識しています。	引き続き行っていきます。
非常時等の対応	14	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	マニュアルの策定はしているが、保育所等訪問支援利用の家族への周知は十分に実施できていません。今後、契約時などの場で周知していくことは必要であると考えます。	業務継続計画を基に保護者にも伝えていきます。
	15	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	児童発達支援センターにおける事業として、保育所等訪問支援事業を行っているため、センターにおける研修や訓練で機会を確保できています。	引き続き行っていきます。